

Ⅱ 茨城県北茨城市

1-1 北茨城市の概観

◇位置

東京から北東に 180km、茨城県の最北端に位置する。市の総面積の約 80%は山林、東部は低地で海岸に面し、市内を流れる大北川、里根川などの流域には平坦地がひらけている。

◇面積

186.55 平方 km

◇人口

16,875 世帯 / 45,436 人(平成 24 年 12 月 1 日現在)

◇主な産業

古くから農業や漁業を中心に栄えていたが、江戸後期に石炭が発見されて以来常磐炭田の中核となり、現在では工業地帯として伸展を見せている。

また、平潟・大津・磯原地区では温泉や鉱泉が湧き出し観光業が盛んである。

◇交通機関

市内を縦断する形で JR 常磐線が通っている。市内の駅として、南中郷駅、磯原駅、大津港駅の 3 駅がある。

また、路線バスとして日立電鉄交通サービスがある。

市役所の最寄り駅は磯原駅。

1-2 北茨城市の震災被害と復興状況

◇被害状況(平成 24 年 2 月 1 日現在) (村・人口動態)

(1) 人的被害・避難者の状況

① 人的被害

区分	人数
死者	5人
行方不明	1人
軽傷者	186 人

② 住民避難の状況(最大時・3 月 11 日)

区分	避難所数(箇所)	避難者数(人)	備考
市民対応の避難所開設	20	5,000 人超	5 月 11 日
福島県からの避難者対応の避難所開設	2	277	閉鎖

(2) 建物の被災状況

① 家屋（単位：件）

区分	件数
全壊	410
大規模半壊	396
半壊（床上浸水含）	1,569
一部損壊	5,722
床上浸水	881
床下浸水	165

② 公共施設等

小学校	12 校
中学校	5 校
その他文教施設	15 箇所
医療・保健施設	3 箇所
道路	464 箇所
橋梁	5 箇所
河川	18 箇所
港湾	2 箇所
その他土公共木施設	9 箇所

市営住宅	6 箇所
水道施設	240 箇所
福祉施設	7 箇所
環境施設	6 箇所
農林水産施設	101 箇所
観光施設	8 箇所
消防・防災施設	8 箇所
その他公共施設	14 箇所

市内を3つに分けた各地区の被害状況は以下の通り。

地区	被害状況	方針
磯原地区	<ul style="list-style-type: none"> 震災の地震・津波により、雨情生家周辺の住宅の多くが全壊・半壊し、応急仮設住宅等へ入居者多数。 地盤が沈下したことにより、台風等の大穰時には大北川からの溢水が発生し、国道6号が通行止めになるなど、障害が生じている。 	観光資源の復興と発展に努める
大津地区	<ul style="list-style-type: none"> 市内でも特に甚大な被害。 基幹産業である水産関連業への影響は計り知れない。大津漁港の復旧には長期間を必要とされることから、地域経済への影響にとどまらず、震災以前から課題であった就労者・就労機会の減少が懸念される。 	漁港施設の早期復旧と雇用の場を確保する対策が必要
平潟地区	<ul style="list-style-type: none"> 甚大な被害。 平潟漁港の岸壁等漁港施設や水産施設が崩壊するなど地域経済に大きな影響を及ぼした。 	基幹産業である水産業の再生を図るには、岸壁等漁港施設や水産施設の早期復旧を図ることが必要

地震・津波による被害は市沿岸地区を中心に広範にわたり甚大な被害が発生、市民生活を直撃した。住宅等への被害は9,143棟(平成24年2月1日現在)にまで及んでおり、これは市内住宅の約53%にあたる。

市民生活においては、生活の基盤となる住宅や宅地、さらには農林水産業・観光産業の

地域産業にも大きな被害をもたらしたほか、企業の事業活動にも深刻な影響を与えている。

また、福島第一原子力発電所事故による被害は環境、健康、産業、教育などあらゆる分野に及び、特に基幹産業である水産業、農業、観光産業などへは、実害に加え風評被害により大きな損害をもたらし、市民の生活へも重大な影響を与えている。（「北茨城市震災復興計画」より）

<人口動態>（単位：人）

北茨城市の人口の増減については、以下の通りである。 ※()内は、前年比

		人口	男	女
平成 23年	2月1日	46,840	23,083	23,757
	4月1日	46,593	22,972	23,621
	10月1日	46,208	22,780	23,428
平成 24年	4月1日	45,833 (-760)	22,604 (-368)	23,229 (-392)
	10月1日	45,468 (-740)	22,423 (-357)	23,045 (-383)

外国人登録数(各年12月末現在)

H19	H20	H21	H22	H23
279	243	227	226	222

平成23年			
3月		4月	
転入	転出	転入	転出
92	232	128	240

平均	平成11年3月～23年2月 *平成12年,17年,22年10月を除く						平成23年4月～24年8月					
	毎月		3月中		4月中		毎月		3月中		4月中	
	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出	転入	転出
	107.2	128.8	199.9	320.8	154.4	174.5	80.5	119.3	113	254	123.5	210.5

北茨城市では、平均と比較したところ、震災後は直後の3月よりも4月に入ってから転出者が多いようである。

◇復興状況

ライフラインの復旧状況

電気	平成23年3月15日市内全域の停電解消
水道	平成23年4月2日市内全域の断水解消

生活インフラの復旧状況

道路	平成23年3月21日 常磐自動車道路不通解消
鉄道	平成23年4月11日 J R 常磐線不通解消（上野駅～いわき駅）

平成31年度を目標年次とする「第4次北茨城市総合計画」の目指す基本理念や基本的な

考え方を踏まえて「北茨城市震災復興計画」を策定した。

復興にあたっては、復旧期、再生期及び発展期と概ね 10 年後を見据えながら、平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 年間の計画を示すこととし、この期間を国の東日本大震災からの復興の基本方針に基づき『集中復興期間』と位置付けている。

地震による液状化で下水管の浮上や沈下の被害箇所も多く、また排水・給水管の破損が市域広範に生じたため長期の断水に陥った。飲料水は継続した安定供給が求められるものであるため、災害に強い管路整備や老朽化施設の改修、更新及び耐震化等ライフライン機能の強化が進められている。

1. 宅の再建・生活支援、2. 社会生活基盤の復旧、3. 保健・医療・福祉の充実、4. 地域コミュニティの再生 を柱に、ハード・ソフト両面の防災対策を講じることにより、安全で安心して暮らせるまちをつくることを目指し取り組んでいる。

1-3 収録地点について

収録地点：北茨城市大津町

◇位置

町の東半分は太平洋に突き出しており、太平洋に面している部分が多い。市内のやや北に位置する町である。

◇交通（距離／交通手段）

東京駅から 175km。車で 2 時間 30 分、公共交通機関使用で約 3 時間。

水戸駅から 66.4km。車で 1 時間 12 分、公共交通機関使用で約 1 時間 30 分。

市役所から 8.0km。車で 16 分。

・最寄駅：常磐線大津港駅（2.1km）

◇地勢

大部分(8割程度)が雑木林である。

太平洋に沿って、六角堂・天心記念五浦美術館・宿泊施設等観光施設がある。

南側には住宅街と漁港・大津港と市場がある。住宅街と森の間には佐波波知祇神社等の寺社がある。

◇行政区画

大津地区

◇人口・戸数(4/1 現在)

人口総数（男・女）／戸数

2010年 2,033人（968人・1,065人）／814戸

2011年 1,823人（888人・935人）／681戸

2012年 1,648人（805人・843人）／626戸

◇産業（生業）

主な産業は、漁業と観光業。

【出典】 * 《 》 中は各ホームページへのアクセス年月日

○北茨城市ホームページ

- ・「市の紹介」 > 「北茨城市の概要」 > 「北茨城市の概要」

http://www.city-kitaibaraki.jp/modules/intro/index.php?content_id=3 《2013.1.16》

- ・「市の紹介」 > 「北茨城市の概要」 > 「位置・地勢」

http://www.city-kitaibaraki.jp/modules/intro/index.php?content_id=6 《2013.1.16》

- ・「市の紹介」 > 「北茨城市の概要」 > 「アクセス」

http://www.city-kitaibaraki.jp/modules/intro/index.php?content_id=8 《2013.1.16》

- ・「行政情報」 > 「統計」 > 「統計きたいばらき」 > 「北茨城市の人口動態」

http://www.city-kitaibaraki.jp/uploads/fckeditor/04/tokei/H23_toukeisyo/uid000004_2012031513311354f1cd84.pdf 《2012.10.2》

- ・北茨城市震災復興計画

[http://www.city-kitaibaraki.jp/uploads/fckeditor/29/sinsaiffukou/sinsaiffukou\(zentai\).pdf](http://www.city-kitaibaraki.jp/uploads/fckeditor/29/sinsaiffukou/sinsaiffukou(zentai).pdf)

「参考資料」

http://www.city-kitaibaraki.jp/uploads/fckeditor/29/sinsaiffukou/uid000029_20120307105704d9984690.pdf

《2012.10.2》

○茨城県ホームページ

- ・国際課 > データ集 > 「外国人登録者数（市町村別）」

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/seikan/kokuko/jpn/data/01-03.xls> 《2012.10.26》

- ・「いばらき統計情報ネットワーク」 > 「茨城県の人口と世帯（推計）月報」 > 「茨城県の人口と世帯（推計）－平成 24 年 12 月 1 日現在－」

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/jinko/getsu/jinkou1212.xls> 《2013.1.16》

以上、1-1, 2 に関して

○茨城県ホームページ いばらき統計情報ネットワーク > 分野別（人口） 《2012.11.8》

- ・「茨城県の人口（町丁字別）」（平成 22 年 4 月 1 日現在）：水戸市～小美玉市の市部

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/jinko/aza/aza22/hyou02-1.xls>

- ・「茨城県の人口（町丁字別）」（平成 23 年 4 月 1 日現在）：水戸市～小美玉市の市部

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/jinko/aza/aza23/hyou02-1.xls>

- ・「茨城県の人口（町丁字別）」（平成 24 年 4 月 1 日現在）：水戸市～小美玉市の市部

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/jinko/aza/aza24/hyou02-1.xls>

以上、1-3 に関して

2 北茨城市の方言の特色

方言区画上の位置・隣接諸方言との関係

茨城県の方言は福島県や栃木県の方言との類似が指摘されることがある。こうした指摘は無アクセントである点などに基づくものである。氷柱をシカ^oと呼ぶなど語彙の面でも福島県と共通する側面がある。このような福島方言との共通性は北茨城市が県北に位置していることと関係があるものと考えられる。

茨城方言の下位区分に関しては北部・西南部・南部の三つに分かれるとする説（田口1939）と県北、浜言葉、県央、霞ヶ浦北浦周辺、県南西、利根川流域の六つに分かれるとする説（読売新聞 1967）がある。北茨城市の方言はいずれの分類においても北部（県北）の方言に分類される。

音韻

(1) 茨城県下の方言には標準語の連母音 ai、ie に対応する要素が[e:]になる傾向がある。否定接辞の「ない」はネーと発音される（フンネー（降らない）。「見える」はメールと発音される。

(2) 語中・語尾のカ行子音・タ行子音の有声化が見られる。「頭」は[adama]、「時間」は[dzigaN]と発音される。この現象があるもののカ行とガ行の混乱は生じない。「開ける」は[ageruu]だが、「上げる」は[ajeruu]であり、軟口蓋子音が鼻音性の有無で区別されている。

(3) 茨城県下の他の地域では、語中のジ・ビ・ズ・ブの無声化が生じる傾向がある。この現象は、ジ・ビ・ズ・ブに無声子音が後続する環境で生じる。この現象はこの方言でも見られる。「2時間」は[nitʃkaN]と発音される（単独の「時間」は前項で示したとおり[dzigaN]である）。「座布団」は[dzaputoN]と発音される。

(4) 後ろに無声子音で始まる接続助詞が来ると活用語尾「ル」が促音化する傾向がある。「すると」はスット、「来るから」はクッカラと発音される。

(5) 茨城県下の方言の大部分では語彙的なアクセントの対立がない。この方言も同様である。

文法

(1) 否定接尾辞ネーに接続するカ行変格活用動詞「来る」の形式はコではなくキである（キネー（来ない））。

(2) 推量・意志の接尾辞「べ」および「ぺ」が用いられる。例：イグベ（行こう）、クッペ（来るだろう）。

(3) 格助詞に関しては、次のような特徴がある。方位格の格助詞サが用いられる点は、茨城県の他の地域と同様である（ドゴサ イグ（どこに行く））。この方言では受け手はニでマークされる。例：オレニ クロ（俺にくれ）。

茨城県内には直接目的語がゼロ格形式もしくは格助詞「ゴド」で表される方言が多い。北茨城市の方言にも同様の傾向がある。例：オーバーチャンゴト イシャー ツレテグ

(おばあちゃんを医者に連れて行く)。

茨城県の他の地域では「俺のもの」の「の」をカ° であらわすところもあるが、調査協力者に聞いた範囲では所有者を表すカ° は用いられないようである。

(4) やや丁寧な表現として「～シテクンニヤ (～してください)」が用いられる。

例：ツレデッテクンニヤ (連れて行ってください)。 カシテクンニヤ (貸してください)。

語彙

(1) 一人称は、男性の場合オレ、ワダシが用いられる。

(2) 氷柱をシカ° という点など東北地方の方言との共通の語彙が見られる。タッペという単語がある点でも東北地方と共通点があるが、東北地方のタッペが霜柱を指すのに対して、この地方の方言では霜柱が溶けてぐちゃぐちゃになっているところを指す。

「疲れた」ことをコワイ、「捨てる」ことを(ブン) ナケ° ル、「かわいい」ことを「メンゴイ」という点も東北地方と共通する点である。

(3) ケ° という接尾辞が人を表す名詞や代名詞につくと「～の家」の意味になる。オレケ° 「俺の家」。「俺の家に行こう」はオレケ° サ イグベである。

(4) 「オッ／オン／カッ／コッ／ズッ／ツッ／ヒッ／ブッ／ブン」など、様々な接頭辞が多用される(『方言事典』)。これは、茨城県の他の地域と同様の傾向である。例：オッペス (押す)、カッパダグ (叩く)、ズッコロブ (転ぶ)、など。接頭辞の種類が多く、多用されるのは、北関東の方言に共通する特徴でもある。

大津の浜のことばについて

話者の話によれば、大津町の中でも商家の多い西のほうのオカ(陸)の人に比べて、東のほうの船関係のハマ(浜)の人のことばはちょっと荒く、町の東西でことばが少し違うという。浜の人の中でも漁師の家のことばは荒く、また、昔ながらの浜のことばを話す人はとても少なくなっているとのことである。

参考文献

田口美雄(1939)「方言」『総合郷土研究 下巻』茨城県師範学校・茨城県女子師範学校編。272-290. 茨城県。

宮島達男(1961)「方言の実体と共通語化の問題点 6 福島・茨城・栃木」『方言学講座第2巻 東部方言』東条操監修。236-63. 東京堂出版。

読売新聞社(1967)『茨城の民俗』鶴屋出版部。

山形巍(2003)『方言事典—大津あたりの言葉と民俗—』北茨城民俗学会。



↑ 写真1 佐波波地祇神社、津波の時の避難場所となった
写真2 ここから、大津港がのぞめる ↓



写真3 平潟漁港 付近は津波の被害が大きく、その後の原発事故で出漁もできなくなった

3 北茨城市大津町の談話

3-1 北茨城市の談話収録の概要

収録地点

きたいばらきしおおつちょう
茨城県北茨城市大津町（東町）

収録日

談話A（自由会話）…平成 24（2012）年 11 月 13 日（火）

談話B（場面設定）…平成 24（2012）年 11 月 13 日（火）

収録場所

北茨城市大津公民館

話題（収録時間）

【1】地震の時の話（6分58秒）

【2】チリ津波の経験談と今回の津波の時の話（5分11秒）

話者

話者A	女性	1937（昭和12）年生（収録時74歳）	主婦
話者B	女性	1938（昭和13）年生（収録時73歳）	主婦（元水産加工業）
話者C	女性	1938（昭和13）年生（収録時73歳）	生命保険代理店
話者D	女性	1938（昭和13）年生（収録時73歳）	パート

*話者A・B・C・Dは幼なじみの友人同士

3-2 北茨城市大津町の談話A：自由会話

【1】地震の時の話

収録時間 6分58秒

話し手

A	女	1937 (昭和12)年	(収録時74歳)	
B	女	1938 (昭和13)年	(収録時73歳)	
C	女	1938 (昭和13)年	(収録時73歳)	
D	女	1938 (昭和13)年	(収録時73歳)	
E	女	1957 (昭和32)年	(収録時54歳)	[調査者]

001C : アタシナンカワ モー スコシ オソカッタラ ツナミニ アッチャッタノネー。
私なんかは もう 少し 遅かったら 津波に 遭っちゃったのねー。

(A アー アー) ナカゴーニ イッテ (A ンー) カエリ。(A ンー)
(A あー あー) 中郷に 行って (A んー) 帰り。(A んー)

オーツエ カエッテ (A ンー) マダ ヒッ ソントキワ
大津へ 帰って (A んー) まだ ×× その時は

テンキョシナガッタノネー。 ソノ テンキョサギノ ヨージオ スマシテ
転居していなかったのねー。 その 転居先の 用事を 済ませて

オーツノ ウチニ モドッテ ウンテンチューダッタノ。(A ヤーダ)
大津の 家に 戻って 運転中だったの。(A やーだ)

ソシタラ ノク^クチ アノ キネンカンノ マエデ {相槌} ゴドゴド
そしたら 野口 あの 記念館の 前で {相槌} ゴトゴト

ゴドゴドッテ ユーノ。 (A アー アーンタ ソリヤ タイヘンダ) アレッ
ゴトゴトって いうの。(A あー あんた そりゃ 大変だ) あれっ

(A ンー) ナンカ オカシー。 パンクシタンカナー ナンツッテー {A 笑}
(A んー) 何か おかしい。 パンクしたのかなー なんて言って {A 笑}

ンデ トメデー アノ ソノー ハジエ トメデ パンク ミテミッカーツツー
それで 止めて あの その一 端へ 止めて パンク 見てみようかという

ウチニ バートボットボットボットオットオットツツタラ
うちに ばーっとぼっとぼっとぼっとおっとおっと いったら

(D シー。 ソーダネッ) チョー デンセンカラ ナンカラ (A シーシー)
(D んー。 そうだね) ××× 電線から 何から (A んーんー)

カワラカラ (A シーシー) バーント トンデ 「ウアー ジシンダー」ツツッテ。
瓦から (A んーんー) ばーんと 飛んで 「うあー 地震だー」って言って。

ホデ オサマッタトタンニ (A ン) ウンテンシダシテ ムチュー。(A シー)
それで 収まったとたんに (A ん) 運転しだして 夢中。(A んー)

{AD 笑} シンゴーモナニモ ワガンネ ソンナノ。 ダーント キテ
{AD 笑} 信号も何も わからない そんなの。 だーんと 来て

(A シー) ココノマエ トーッタラ ミーンナ Y1ヤラ [1] アノ
(A んー) ここの前 通ったら みんな Y1やら あの

Y2カイ [2] {相槌} アノY2 ブロックベア。(A シー ミンナ タオレテル。)
Y2かい {相槌} あのY2 ブロック塀。(A んー みんな 倒れてる。)

(D クズレテタモンネ) (B) ミーンナ モー ソコ
(D 崩れてたもんね) (B) みんな もう そこ

ドー トーッタカ ワガンナインダヨ。(D シー) アノ ウンテン
どう 通ったか わからないんだよ。(D んー) あの 運転

ヘタナノガ [3]。{D 笑} ドーヤッテ ウンテンシタンダカ ワカンナイヨーニ
下手なのが。 {D 笑} どうやって 運転したんだか わからないように

ウチー モドッチャッタノ。 ウジワ タカダイダカラ。(A ネー) ホンデー
家[に] 戻っちゃったの。 家は 高台だから。(A ねー) それで

ソコマデ ノボッタラ ミーンナ ヒナンスル シトラモ タカダイニ
そこまで 登ったら みんな 避難する 人等も 高台に

キタノネ。 {相槌} ソノウチ ウチー コー チョット ミタラバ
来たのね。 {相槌} そのうち 家[を] こう ちょっと 見たらば

ゲンカンナンカモ アイチャッテンダイネ。(A シー シー) アラ モ
玄関なんかも 開いちゃってんだよね。(A んー んー) あら もう

ゲンカン アイチャッテルワ ナガモ ドーニカナッテル オッカナクテ モー
玄関 [が] 開いちゃってるわ 中も どうにかなってる 恐くて もう

ウジーンナガワ ハイランナイカラ。(A シー) ンダカラッテ シ
家の中は 入れないから。(A んー) そうだからって ×

チューシャジョーニ トメデー 丑 クルマンナカニ イデ。(A ン一)
駐車場に [車を]止めて × 車の中に いて。(A ん一)

ソーシタラ コンド ツナミ。 ハ ミエタヨーナ ミ一 ン一。
そうしたら 今度[は] 津波。 × 見えたような ×× ん一。

(A スコ° カッタダッテネ ツナミネ) (D アトナッテネ) ウォーント
(A 凄かったんだってね 津波ね) (D 後になってね) うおーんと

マックロクナッテキタノネ一。 ホンデ アノ アノ キッツ [4]。 アオイ
まっ黒くなってきたのね一。 それで あの あの キッツ。 青い

キッツナンカ ドンドン ドンドン ナガレテ (A ン一 キッツガ _____)
キッツなんか どんだん どんだん 流れて (A ん一 キッツガ _____)

(B ン一 _____ ソーソーネ一) (D _____ ネ一) フネガ イッソー
(B ん一 _____ そうそうね一) (D _____ ね一) 船が 一艘

グルングルン (A ン一) グルングルンッテ マーッテンダ。(D ン一)
ぐるんぐるん (A ん一) ぐるんぐるんって 回ってるのだ。(D ん一)

(A ン一) ウミノウエ。(A ン) アララ アノフネ ヒト
(A ん一) 海の上。(A ん) あらら あの船 人 [が]

ノッテンダッペカ ノッテネンダッペカナンツッテ ユッテ ミテタノネ一。
乗ってるのだから 乗ってないのだからかなどと言って 言って 見てたのね一。

ノッテネカッタダッペネ アノフネア。(A ノッテネ一) マサカ
乗ってなかったのだろうね あの船は。(A 乗ってない) まさか

ノッテタラバ
乗っていたらば

002A : ナグナッタ ヒト シトリダカラ。(C ネ一) ノロートシテ
亡くなった 人[は] 一人だから。(C ね一) 乗ろうとして

オッコッタダガラネ一。
落っちたのだからね一。

003C : ネ一。 フネ ナガサレッチッタンダッペヨ アレー。 イヤイヤイヤイヤ。
ね一。 船[は] 流されちゃったのだろうよ あれ一。 いやいやいやいや。

004A : ミンナネ ソコノ ホラ ヨーチエン アカ° ッテク カイダンカラ
みんなね その ほら 幼稚園[に] 上がっていく 階段から

ナカ°メテタノネ ツナミオ。(D アー ソーナンド) アタシーワ ニケ°ンノ
眺めてたのね 津波を。(D あー そうなんだ) 私は 逃げるの[に]

ムスメガ ムチューダト オモッテ ンデ アタシワ ミタノ。アッ
娘が 夢中だと 思って それで 私は 見たの。あッ

ナガメテルワツツッテ。ソノコロ ハー ツナミカ° キテタンデスッテ。
眺めてるわと言って。その頃[に] もう 津波が 来てたんですって。

ヨーグ タスカッタト オモッテ。
よく 助かったと 思って。

005C : ダモンネー。 アタシ トーッデ ツイデカラ。ツイデカラダモン
私[が] 通って 着いてから。着いてからだもの

ヨガッタヨー ホント。(D スゴイコトダネ) _____。
良かったよー 本当。(D 凄いことだね) _____。

006A : マ ケータイノ チズワ マッカデシタモンネ。
まあ 携帯[電話]の 地図は 真っ赤でしたものね。

007E : マッカッテ ドーシテ マッカシナッチャッタン
真っ赤って どうして 真っ赤になっちゃったん[ですか]

008A : ケータイ。チズ ン トーホグカラ イバラキケン。(E エー) ゼンブ
携帯[電話]。地図[の] ん 東北から 茨城県。(E えー) 全部

ケータイ マッカ。
携帯[の画面が] 真っ赤。

009B : モー ヒナンシロッテユー。
もう 避難しろっていう。

010A : ン ジシン ノカ° オーキーッテユー マグニチュードカ°
ん 地震 の[揺れ]が 大きいっていう マグニチュードが

オーキカッタカラカナ。デ ウチノ ムスメ セッコツイン X1 [5] サン
大きかったからかな。[それ]で 家の 娘[は] 接骨院[で] X1 さん

ミテミナ コノケータイ マッカダヨッテユーワケ。ソデ アタシ
見てみな この携帯[電話] 真っ赤だよって言うわけ。それで 私[は]

バカだから アンタ セッコズインノ アノ キカイ、コーイトコ
馬鹿だから あなた 接骨院の あの 機械[の]、こういうところ[に]

アテカ^ウ キカイ イッショケンメ ツカマエテ (D ン) ヤッテタノ。 {笑}
あてがう 機械[を] 一所懸命 掴まえて (D ン) やってたの。 {笑}

{D 笑}

{D 笑}

011C : オッカネーコト。
怖いこと。

012A : ネー。 センセト フタリデ ホカノ シトラ オッカネーヨッテ シタサ
ねー。 先生と 二人で 他の 人ら[は] 怖いよと言って 下に

オ ベットノ シタイ クグッタノニ アタシ イッショケンメ ツカマエテ。
× ベッドの 下に くぐったのに 私[は] 一所懸命 [機械を]掴まえて。

タカイデショ アノキカイツテ。 {笑}

高いでしょう あの機械って。 {笑}

013C : アー。
あー。

014D : ヤ ホーント オッカナカッタネー。
いや 本当[に] 恐かったねー。

015C : デンキナンカ ホント ホンデ アタシワ ムスメントゴ ムスメカ[°]
電気なんか 本当 それで 私は 娘のところ 娘が

キテクレデ (A ンー) 「バーチャン ドシテー」ツッテ ムスメワ モー
来てくれて (A ンー) 「ばあちゃん どうした？」と言って 娘は もう

イッショケンメ キテクレタノネー。 ホンデー ウチー モー ウチー
一所懸命 来てくれたのねー。 それで 家に もう 家に

ハインナイデ (A ンー) ヒナンシンダツツッテ (B ンー) ソノ
入らないで (A ンー) 避難するんだと言って (B ンー) その

ソノアシデモッテ ナンニモ モタズニ (A ンー) ムスメントコ イッタガラ
その足でもって 何にも 持たずに (A ンー) 娘のところ[に] 行ったから

(A ンー) (B ンー) ホラ ソロツタガラ (B ンー) ムスメンチニワネ。

(A ンー) (B ンー) ほら そろってたから (B ンー) 娘の家にはね。

ダ ムスメンチデ ズーット アンタ ヒッコスマデ イッカゲツ イタヨ、
だから 娘の家で ずっと あんた 引っ越すまで 1ヶ月 居たよ、

(A アー) ムスメンチニ。 ンー。 ソノカン デハイリシテタケド
(A あー) 娘の家に。 んー。 その間 出入りしてたけど

ウチンナカナカナンダモカンダモナカッタワ ゲンカン ハイランナカッタモン
家の中なんでもかんでもなかったわ 玄関[には] 入れなかったもの

ダッテ。 {相槌} _____
だつて。 {相槌} _____

016D : サムカッタヨネ ナンツツテモネ。
寒かったよね なんととってもね。

017A : サムカッター。
寒かったー。

018C : サムカッタ。
寒かった。

019D : イヤー ホンート シタカラ フキアゲテキテネ。 イタ ブツツケ
いや 本当[に] 下から[寒さが]吹き上げてきてね。 板 打ち付け

020A : ン デ キョーシツカ°ネ ユカデシヨ。(E ソーデスネ) ソシテネ
うん[それ]で 教室がね 床でしょう。(E そうですね) そしてね

ダンボールカ° ヒーテアルンデスヨ。 ンー デモ コーニ ドーニモ
段ボールが 敷いてあるんですよ。 んー でも このように どうにも

ナンナイ_____。(D ンー) カーテンカ° ゼンブ ハズシテアッタノ。
ならない_____。(D んー) カーテンが 全部 外してあったの。

(D ンー) ソノ カーテン ヒーテ クルマッテー。 ソシタラ
(D んー) その カーテン[を]敷いて くるまってー。 そうしたら

フツカメクライニ カドーノノ [6] トア トーノノ メーツコカ° キテ {相槌}
2日目くらいに 上遠野の ×× 遠野の 姪っ子が 来て {相槌}

ゴゼンチュー キテ、「X1 オバチャン ナニカ モツテクル」ト。
午前中[に] 来て、「X1 おばちゃん 何か 持ってくる」と。

アタシアネー エンリョスンダッケー ソコデ。 {相槌} イーヨー ダイジョブ
私はねー 遠慮するんだよ _____ そこで。 {相槌} いいよ 大丈夫

シタッ ゴコ° ッカラ モーフ ニマイ モッチキテクレタ^レ。 (D ンー)
××× 午後から 毛布[を] 二枚 持ってきてくれたの。 (D んー)

デ イチマイオー オッテ ヒーテ(D ン一。 タノネ)カブセテ ネタノ。
[それ]で 一枚を 折って 敷いて(D ん一。 たのね)被せて 寝たの。

(D ン一) イヤー ホント ビッシリダガラネ。 アノ キョーシツ シトツ。
(D ん一) いやー 本当[に] ビッシりだからね。 あの 教室 一つ[に]。

021B : ン ダンボール ヒーテアッタモンネ。(A ネ一)
ん 段ボール[を]敷いてあったものね。(A ね一)

022D : マッタクネ一。
全くね一。

023C : ネ一。 ムスメントコダカラ アッタカクシテ ネテライタカラ
 ね一。 娘のところだから 暖かくして 寝ていられたから

024D : ワタシモ イモートントコイネ カーベノ [7] イモートントコエ イッテ
私も 妹のところにね 川部の 妹のところへ 行って

オセワンナッテタカラ ヨカッタケド。 サイショワ アノ ゴハン
お世話になってたから よかったけど。 最初は あの ご飯[を]

タイテイテネッ モッテキテクレテタンダヨネ。 デ ミンナ キンジョノ
炊いていてね 持ってきてくれたんだよね。 [それ]で みんな 近所の

シトモネ ホラ ヤッテタカラ (A アーソー) タベナーナンツッテ
人もね ほら[避難]やってたから (A あーそう) 食べなさいなんて言って

サベサシテ ヤッタケド。
食べさせて やったけど。

025A : ンデネ一。 X2 [8] ナンツノ ドーキューノ X3 [9] チャンチ。
それでね一。 X2 なんて言うの 同級[生]の X3 ちゃんの家?

X3 チャンチノ オクサンガ ユデタマコーオ ヒャクゴジュツコクライ
X3 ちゃんの家の 奥さんが ゆで卵を 百五十個くらい

モッテキタノネ。(B ン一) ン一デ ホカノ シトカ° コレ X2 サンデ
持ってきたのね。(B ん一) それで 他の 人が これ X2 さんで

ヨコシタヨーッテ クバツテクレッタ。 ハヤイモノカ°ジヨ
寄越したよーって 配ってくれた。 早い者勝ちよ

ナンビヤクニンッテ インダモンネ一。(D アー ネ一) ン一。
何百人て 居るんだものね一。(D あー ね一) ん一。

ホンデー アタシモ イッコ モラ アタシト ムスメ イッコズツ
それでー 私も 一個 ×× 私と 娘[で] 一個ずつ

モラッタゲドサー アタンナイ シトモ イッパイ イルワケ。
もらったけどさー 当たらない 人も いっぱい いるわけ。

026D : ソーデショーネ。 ソナノネー。
そうでしょうね。 そなのねー。

027C : アタシワ モー ニーダノ [10] ジッカ {A 嘆息} ダケワサ (A シー) アラ
私は もう 仁井田の 実家 {A 嘆息} だけはさ (A んー) あら

アノフーフ ドーシテッペト オモッテサー、 (A シー) アノー
あの夫婦[は] どうしてるだろうかと 思ってさー、 (A んー) あの一

ガスダケワ ツカエタカラネ。 (A シー アー) テーデン ナッテモ
ガスだけは 使えたからね。 (A んー あー) 停電[に] なっても

(A シー) ガス (A ガス) アノ アノ ドナベデー (A シー) ゴハン
(A んー) ×× (A ガス) あの あの 土鍋で (A んー) ご飯[を]

タイデ、 ムスメ ゴハン バーチャーシ イ コレ モッテッテヤッテミナー、
炊いて、 娘[が]ご飯[を] ばあちゃん[に]× これ 持って行ってやってみな、

デ ヨース ミテキテミナーツカラ、 コンダ ムスコモ
[それ]で 様子[を]見てきてみなって言うから、 今度は 息子も

クルマイ ウンテンシテサー (A シー) クル ムスコガ。 ホシテ イッテ
車を 運転してさ (A んー) ×× 息子が。 それで 行って

オニキ^oリ ヤッタラ、 イヤー アリカ^oテーツツッテ ウジニ イタガッタ
おにぎり[を] やったら、 いやあ ありがたいと言って 家に 居たかった

シトバンシカ トマンネンデ ウジー カエッテ ニカイデ (A シー
一晩しか[避難所に]泊まらないで 家に 帰って 二階で (A んー

トマンネーノー シー アーアア) {相槌} コーヤッテ ローフーフ
泊まらないのー んー あーああ) {相槌} こうやって 老夫婦[が]

ネテタンダヨ。
寝ていたんだよ。

028B : シター ミズ ハイッタ。
下[の階に] 水[が] 入った？

029C : ハイッタ イチメートルグレー。
入った 1メートルぐらい。

030B : ハイッテルネ。 ンー ウチラモ (C ンー) ケッキョク カシ
[津波が]入ってるね。 んー 私のうちも (C んー) 結局 ××

(A ハイッタ ハイッタ) カシア ナクナッチャッタ。 コワシチャッタ。
(A 入った 入った) 貸家[は]なくなっちゃった。 壊しちゃった。

031A : ナツ ナツカシデ コワシタンダネ。 (B ンー) ンー。
×× //////// 壊したんだね。 (B んー) んー。

032C : イチメートルグライ ハイッタ。 (A ンー) ダー イヤー フツカ ツズケテ
1メートルぐらい[津波が]入った。 (A んー) だから いやー 2日 続けて

サシーレンシタケドモ、 イヤー アリガタカッタッテ ユッター。
差し入れしたけれども、いやー ありがたかったって 言った。

033A : アリガタイナンツーモンジャナイヨ。 ソンデ コンド タキダシカ°
ありがたいなどというものじゃないよ。 それで 今度 炊き出しが

ハジマッタデスヨー {相槌} オーツショーガッコーネツ。 ンデ ゼンブ
始まったのですよー {相槌} 大津小学校ね。 それで 全部

ナラブンデスヨ。 (B ンー) ワカンナイシト オトシヨリナンテ ショイット
並ぶのですよ。 (B んー) わからない人 お年寄りなんて しょいっと

ヨコカラ ハイルデシヨ。 ソースット ワカイ オトコニ ドナラレンデスヨ。
横から[列に]入るでしょう。 そうすると 若い 男に 怒鳴られるんですよ。

(B アー) ナラビヤガレーッテ。 {D 笑} イヤー ソースット カワイソー
(B あー) 並びやがれーって。 {D 笑} いやー そうすると かわいそう

イズラアタリン [11] ドッカラカ キテタ オイ キョーダイダッタノネ。
五浦辺りの どこかから 来ていた ×× きょうだいだったのね。

(B ンーンー) (D ンー) ンデ 「イーカラ イナサイ
(B んーんー) (D んー) それで 「いいから [ここに]いなさい

モラッテキテアケ°ルカラ」ッテ ウジノ ムスメカ° イッタリシテ。
貰ってきてあげるから」って うちの 娘が 言ったりして。

034C : ホーダヨネー。 タベルモノワネー ダイジダモノ。 フンデモ ケッコー
そうだよねー。 食べる物はねー 大事なもの。 それでも 結構

タベルダケア オチズイテカラワ アッタンダッテ。
食べるだけは 落ち着いてからは [避難所に]あったんだって？

035D : ソー ケッコー アッタヨネ。
そう 結構 あったよね。

【2】チリ津波の経験談と今回の津波の時の話

収録時間 5分11秒

話し手

A	女	1937 (昭和12) 年	(収録時 74 歳)	
B	女	1938 (昭和13) 年	(収録時 73 歳)	
C	女	1938 (昭和13) 年	(収録時 73 歳)	
D	女	1938 (昭和13) 年	(収録時 73 歳)	
E	女	1957 (昭和32) 年	(収録時 54 歳)	[調査者]

036A : アノ チリツナミノドキ ミテルンデスヨ。 {相槌} ココ。
あの チリ津波の時[を] 見ているんですよ。 {相槌} ここ。

037E : ケッコウ ソーユハナシ (B ンー) ヨク キキマス。 エー。
結構 そういふ話[を] (B ンー) よく 聞きます。 ええ。

038A : デ ココネ アノ サート ナミガ ヒーテイッテ オキー
[それ]で ここね あの さーっと 波が 引いていって 沖に

イッテー スト ワンノナカ ゼンブネ アワビカ° タズンデスヨ
[波が]行って [そう]すると 湾の中[は]全部ね 鮑が 立つのですよ

ユーユーフーニ。(B ンー)アタシモ ニジューゴネンクライノトキダッタ____。
こういうふうに。(B ンー)私も 二十五年[歳]くらいの時だった____。

039D : トッタノケ。
捕ったのかい。

040B : アタシ アタシラ モー ケッコンシテ ス ソッチノホー (A ンー)
私 私ら[は] もう 結婚してて × そっちのほうに (A ねー)

イッテタカラ。
[嫁いで]行ってたから。

041A : ニジューゴグライデ デ ウチノテーシュカ° X4サンカ° [12] アービトリニ
二十五[歳]ぐらいで[それ]で 家の亭主が X4さんが 鮑捕りに

イッタンダヨ。 {D 笑} ソシテ ミンナ オジチャンラ イクンダワー
行ったんだよ。 {D 笑} そして みんな おじちゃんら[が] 行くんだわー

ワンー ナカサ。 ソースット ホラ キタゾーツツト ン ミンナ
湾[の] 中に。 そうすると ほら[波が]来たぞーというのと × みんな

ニゲデクルワケ。(D ン一) ウーチノ マエクライマデ チョロチョロツテ
逃げて来るわけ。(D ん一) 家の 前くらいまで ちよろちよろって

ツナミカ° キタノ。 オーキグナカッタ ソンナ _____。(C ンデモ
津波が 来たの。 大きくなかった そんな _____。(C それでも

ツナミガ クットネ_____) (D アー ネット) モー ミンナ
津波が 来るとね_____) (D あー ねっ) もう みんな

トシヨリワ ソレオ ミテタカラ タイシタコトネート オモツテ。
年寄り は それを 見てたから たいしたことないと 思って。

042B : ン一 ニゲナカッタ ンダ。
ん一 逃げなかつた んだ。

043C : ソーダヨ _____ ネット。
そうだよ _____ ねっ。

044D : ネ一 ソーダヨネ。 ソーユワケ ダッタ。
ね一 そうだよ ね。 そういうわけ だ った。

045A : ソ ン デ マ タ ー ナ ミ ガ ヒ ク ト マ ダ ア ワ ビ ト リ ニ イ ツ テ タ ン ダ ヨ。
それ で ま た 波 が 引 く と ま た 鮑 [を] 捕 り に 行 っ た ん だ よ。

{相槌} アンナフーニ キレーニ ワンニ ナツテナガッタカラ。(D ネ一。
{相槌} あんなふうに きれいに 湾に なっていなかったから。(D ね一。

ダカラ) ホンートニ コワイデスヨ。
だから) 本当に 恐い で す よ。

046D : ホ ン ー ト コ ワ イ ネ ー。
本 当 恐 い ね ー。

047C : ヤ ー オ ツ カ ナ カ ツ タ ヨ ネ ー。 ン 一 デ モ ネ (D オ ツ カ ナ カ ツ タ) ン 一 ア ノ
や ー 怖 か つ た よ ね ー。 ん 一 で も ね (D 恐 か つ た) ん 一 あ の

ナミカ° マ ツ ク ロ ダ ヨ。(A ス ン ゴ イ ン デ シ ヨ) マ ツ ク ロ。(A ン 一)
波が 真 っ 黒 だ よ。(A 凄 い ん で し よ) 真 っ 黒。(A ん 一)

オワンン 上。
おわん と。

048B : ウ チ ホ ラ タ カ ダ イ ダ カ ラ (A ン 一) チ ツ ト モ ソ ー ニ ニ ニ カ イ カ ラ
[私の]家[は] ホ ラ 高 台 だ か ら (A ん 一) 少 し も そ う × × 二 階 か ら

ニケ^テ オリテキテ (A ン一) ソト デタデシヨ。 ソシタラ ホ スナ
逃げて 降りてきて (A ん一) 外[に]出たでしよ。 そうしたら × 砂

スナアラシ (A ン一) (D ア一 ン一) (A へ一エ) バーツテ。 アタマニ
砂嵐 (A ん一) (D あ一 ん一) (A へ一え) ば一って。 頭に

スナガ カカンノ。 (A へ一) ソレデ マエワネ モア一ツト シロク {相槌}
砂が かかるの。 (A へ一) それで 前はね もあ一つと 白く {相槌}

(D ア一) アノ一 ナンテノ モヤガ カカッタミタイニ。 (D ン一 ン一)
(D あ一) あのう 何て言うの 霏が かかったみたいに。 (D ん一 ん一)

(A ン一) スイブント ホコリト ナンカナノカナ一 ヤネノ ホコリトカ。
(A ん一) 水分と 埃と 何かなのかな一 屋根の 埃とか。

(D ン一) モア一ツトシテ ニ一ダノ ハマノホ一ワ ナン カスミガ
(D ん一) もあ一つとして 仁井田の 浜のほうは ×× 霞が

カカッタヨ一ナノ。 (A ン一) (D ン一) ソノウチ ナンダツケ アノ
かかったようなの。 (A ん一) (D ん一) そのうち[に] 何だっけ あの

ユキガ フツテキタ。 (D ン一 ン) シク^レレテキタ。 (A ン一) (C ソー
雪が 降ってきた。 (D ん一 ん) 時雨れてきた。 (A ん一) (C そう

シク^レレタンダ) フ一ツト サムクナツテ (A ン一) (D ン一) モ一
時雨たんだ) ふ一つと 寒くなって (A ん一) (D ん一) もう

アノシュンカンノ アレワ オモイダシテモ ズツトスルネ。 ソノ ス一ツト
あの瞬間の あれは 思い出しても ぞつとするね。 その す一つと

ヒエテキタ (D ン一) ソノシュンカンノ カンジネ。
冷えてきた (D ん一) その瞬間の 感じね。

(C シク^レレテキタカラネ) (D ネ一) ン一。 ソノアト アノ一
(C 時雨れてきたからね) (D ね一) ん一。 その後 あのう

キタワケダヨネ。 ナンカ スゴイド一ツツテ ミンナ アノ一
[津波が]来たわけだよ。 何か すごいぞ一つと言って みんな あのう

(D ン一)

(D ん一)

049C : ダツテ テ一ボーナンテ モ一ヨ アツテユ一マダモン。 コノ オツキ一ノ
だって 堤防なんて もうね あつという間だもの。 この 大きいの[が]

キタトキ アノ テーボーダッテ モー。
来たとき あの 堤防だって もう。

050 B : ン。 テスリノホーサ ズーット デテッタダヨ アノ タカダイニネ。
ん。 手すりのほうに ずーっと 出てたんだよ あの 高台にね。

(A アー) (D ネー。 アノ コワレチャンダモンネー) ソイデ みんな
(A あー) (D ねー。 あの 壊れちゃうんだもんねー) それで みんな[が]

ミテル マエデ フネワ コ コーナルシ
見ている 前で 船は × こうなるし

051 C : コーナルシ。
こうなるし。

052 A : アノー オキー ダシタ フネモ イルンデスヨ。 ネット。(B ダシタ
あのー 沖に 出した 船も いるんですよ。 ねっ。(B 出した

ンー) ツナミガ クッカラッテ モー オキエ
んー) 津波が 来るからって もう 沖へ

053 B : アナウンスシテ アルイタカラ アナウンスシテ アルッテテ、 ソントキ
アナウンスして 歩いたから アナウンスして 歩いていて、 その時

タマタマ ウチニ イテ (A ンー) アノ スグニ トビダシテイケタ シトワ
たまたま 家に 居て (A んー) あの すぐに 飛び出して いけた 人は

フネガ ダセタン。(A ネット。 ソーー) アトノ シトワ ダセナカッタ。
船が 出せたの。(A ねっ。 そうー) 後の 人は 出せなかった。

(A ンー)
(A んー)

054 C : ウチ アノ ホラー ムンメンチデア フネー ダシタンダッペヨ。
[私の]家は[は] あの ほらー 娘の家では 船[を] 出したんだらうよ。

(A ンー) (D ンー) ンデ トラックワ トラック ソコサ オイテ
(A んー) (D んー) それで トラックは トラック[を] そこに 置いて

(A オイテ アー ソーカ。) フネ ダシタツツーカラ (B ンー
(A 置いて あー そうか。) 船 出したと言うから (B んー

ソーダッペヨ) ムスメ マサカ トラック トリニワ (B ンー)
そうだらうよ) 娘[は] まさか トラック[を] 取りには (B んー)

イッテランメーヨ。 (A ンー) イガネデ セーカイダッペヨネー。
行ってられないだろうよ。(A んー) 行かないで 正解だったろうよねー。

トラック ソノママ ナガサレチャッタケドモ (A ンー)
トラック[は] そのまま 流されちゃったけども (A んー)

ネッ フネワ (D _____) タスカッタカラネ。
ねっ 船は (D _____) 助かったからね。

055D : Y3 デモ [13] サンダイ ナガサレチャッタ。(A ネー) (B ンー)
Y3 でも 3台 流されちゃった。(A ねー) (B んー)

アノ チョード オクサンモ イナカッタ~~ンダ~~ッペ。(A アーソー)
あの ちょうど 奥さんも 居なかったのだろう。(A あーそう)

X5 [14] シトリダッタ~~ンダ~~。(A アランランランラン ソンデ)
X5[が] 一人だったんだ。(A あららら それで[は])

ドーニモナンナイネ {相槌} シトリデ サンダイモ トバセランナイデショー。
どうにもならないね {相槌} 一人で 3台も 走らせられないでしょう。

ミンナ ナガサレチャッタ~~ンダ~~ッテ。
みんな 流されちゃったんだって。

056A : ダカラネッ アタシト ムスメ ニケ[°]ットキー ウチントコカラ ドーロ
だからね 私と 娘[が] 逃げる時 家のところから 道路[に]

デタラ ソーノ ソッ ソッチノ セーフン [15] S1ノ [16] フナヌシカ[°]
出たら その ×× そっちの 製氷[所] S1の 船主が

コーミンカンノホーガラ オリテイッタノヨ (B ンー) ケートラデ。(D ンー)
公民館のほうから 降りていったのよ (B んー) 軽トラックで。(D んー)

ナーンデ コンナ フナヌシ ツナミ クルツーノニ。 ソシタラ ヤッパシ
何で こんな 船主[は] 津波[が] 来るというのに。そうしたら やっぱり

ハマニ ミンナ シヤガセンノ [17] (D ンー) シトラ イタミタイデ
浜に みんな[を] チャカ船の (D んー) 人ら[が] いたみたいで

(D アー) フナヌシナンダ ドコ ヤッテンノーツツッテ クビ
(D あー) 船主なんか どこ やってんのかって 首[を]

ツカマエタ~~ンダ~~ッテ、(D アーソー) クルマガラ オロシテ。 ケートラダカ。
掴まえたんだって、(D あーそー) 車から 降ろして。 軽トラックだから。

ンダ X6 アンチャン [18] (B ン) (D ン) アンチャンナンカカ°
それで X6[の]長男 (B ん) (D ん) 長男なんか

フナヌシゴト タスケタンダツツタワ。(C アッ ソー) ン。
船主を 助けたんだってと言う。(C あっ そう) ん。

ホーントネー。
本当ねー。

057D:ダ タイシタコトナイト オモツタ シトガネ(A オモツタ ネ ミン)
× [津波は]大したことないと 思ってた 人が ね (A 思ってた よ ね ××)

ケッコー イルン ダイ ネツ。(C ソ) (A {笑} ン) ン。ダ
結構 居る んだ よ ね。(C そう) (A {笑} ん) ん。だから

コンダ ワカッタカラ コンドワ ニゲル デ ショ ケド。(A コン ド ワ)
今度は わかったから 今度は 逃げる で し よ う け ど。(A 今 度 は)

モーネー コナイト モ ケ ド (C) ワカンナイヨネー。
もうねー 来 ない と 思 う け ど (C) わらないよねー。

(A ワカ ン ネ ー) ネ ー。
(A わ か ら な い) ね ー。

058B:ホント グルグルグルグル マーッチャ アタシラ チョード メノマエカ°
本当 ぐるぐるぐるぐる 回って 私ら[は] ちょうど 目の前が

コー ワン ニ ナ ツ テ (A ン) イ リ エ ン ナ ツ テ ル ト コ ニ (D ン) コー
こう 湾 に な っ て (A ん) 入 り 江 に な っ て る 所 に (D ん) こう

タカイトコガ アンデスヨ ドーロガネツ。(A ン) コッチッチ
高い所が あるんですよ 道路がね。(A ん) こっち

イツラノホーニ イグ ドーロガ。 ソノ シッ ココラヘンマデ ミズガ
五浦のほうに 行く 道路が。 その ×× ここら辺まで 水が

キタノ。
来たの。

059A:ソーンナニ キター。
そんなに 来た?

060B:キタンダヨ。 イチメートル。 シ (D ア ー ソ ー) (A へ ー) ソ イ デ
来たんだよ。 1メートル。 × (D あ ー そ ー) (A へ ー) そ れ で

ダカラ イチ ソレイジョー クルッテユー ヨソクガ ミンナ ナイノネッ。
だから 1 それ以上 来るっていう 予測が みんな ないのね。

(A ンー) (D ンー) ソイデ アノ アナンスシテ キケンダカラ (A ンー)
(A ンー) (D ンー) それで あの アナウンスして 危険だから (A ンー)

(D ンー) ドケッテ ミンナ ュッテ アッ クルマガ スーッと
(D ンー) 退けて みんな[に] 言って ×× 車が すーっと

イクンダヨ、 (A ンー) (D ンー) ヤクショノ クルマガ。 ソレデモ
行くんだよ、 (A ンー) (D ンー) 役所の 車が。 それでも

ミンナ ミテンノ。(A ミテー) ミテンデシヨ。 ンー。
みんな 見てるの。(A 見て) 見てるんでしょ。 ンー。

061D : ダカラ アノネ、 ユイカタカ[°]ー (A ンー) アノ イマ ツナミ クルヨー、
だから あのね、 言い方が (A ンー) あの 今 津波[が] 来るよー、

ハヤク ニゲローツテ (A ツ ネ ネ) コーネ キケン ナンテノ (A B ンー)
早く 逃げろーって (A × ね ね) こうね 危険 何て言うの (A B ンー)

ソノー ソーユ スコイネ (A ンー) コトバデ ユッテクレレバイン。
その そういう すごいね (A ンー) ことばで 言ってくればばいいの。

(A ンー。 アワテテ ュッテ) タダイマー ツナミガ キマスー、{A B C 笑}
(A ンー。 慌てて 言って) ただ今 津波が 来ますー、{A B C 笑}

ミナサン ハヤク ニケ[°]テクダサイッテ、 コーユーンジャ ダメナノヨ。
皆さん 早く 逃げてくださいて、 こういうのじゃ 駄目なのよ。

(A ンー) (B ンー) ハヤク ミンナ ニゲロ シンジャードー トカ
(A ンー) (B ンー) 早く みんな 逃げろ 死んじゃうぞー とか

コーフニー モー カゲキニネ、 ソー ン ダカラ ユワナイトー。
こういうふうに もう 過激にね、 そう ン だから 言わないとー。

062A : ダッテ ダレモ ケーケンシテナイカラ ワカンナイ {笑}
だって 誰も 経験してないから わからない {笑}

063C : ミンナ ヤッパリ (D ンー) ソレホドノトワ (A オモッテナインダヨ)
みんな やっぱり (D ンー) それほどの[津波]とは (A 思っていないだよ)

オモッテナガッタんだヨ。
思ってたんだよ。

064D : オモッテナイデショー。ダカラ ネー デモ ラジオワ ユッテマシタヨ。
思っていないでしょう。 だから ねー でも ラジオは 言ってましたよ。

オーキー ツナミガ キマスカラ (A ンー) ミナサン ニケテクダサイ、
大きい 津波が 来ますから (A んー) 皆さん 逃げてください、

(A ンー) タカダイニ ニケテクダサイッテ (A ンー) ソレワ ユッテタ。
(A んー) 高台に 逃げてくださいって (A んー) それは 言ってた。

(B ンー) ダカラ アー コレワ スコイナットモッテ。 {相槌} ナ
(B んー) だから あー これは すごいなと思って。 {相槌} ×

065A : ダカラ アノ ハンショーナンカ ナンニモナンナイモン。
だから あの 半鐘なんか 何にもならないもの。

066D : ナン ナンニモ {笑}
× 何にも {笑}

067B : {笑} ダレモ アノ ハナシ スル
{笑} 誰も あの 話[を] する

068A : ネー。
ねー。

069D : ダレモ ナラサネー。 アンナモン ナラサナイヨー。
誰も 鳴らさない。 あんなもの 鳴らさないよー。

070B : ダレモ アノ ハナシ アトカラ ユー シト イナイネ。(A アノ) モ
誰も あの話[を] 後から 言う 人[は] いないね。(A あの) もう

アキレチャッテ。 {笑}
呆れちゃッて。 {笑}

071D : ハンショー アンノ シッテマスカッ。 ソレ ダレモ ナラサナイ。
半鐘 あるの 知ってますか? それ 誰も 鳴らさない。

072A : ネー。 アンナモノ ダレ ナラシマス ツナミ キテル。
ねー。 あんなもの 誰[が] 鳴らしますか 津波[が] 来てる[のに]。

073D : ダレガ ナカシ ネッ イマ ツナミガ (A ネー) クルノニ。
誰が ××× ねっ 今 津波が (A ねー) 来るのに。

イゲナイデショー。
行けないでしょう。

074C : ナラシ イグノネー。
鳴らし[に] 行くのねー。

075B : キコエ キコエナイシー。
聞こえ 聞こえないしー。

076A : ナッチャッテ。
なっちやッて。

077D : ネット キコエナイヨネ、 アンナモン ナラシタッテネー。 {A 笑} {笑}
ね 聞こえないよね、 あんなもの 鳴らしたってねー。 {A 笑} {笑}

078B : アーレワ ミンナ モー クチ ツグンデ ダレモ ユワナイネ。 (A ンー)
あれは みんな もう 口[を] つぐんで 誰も 言わないね。 (A んー)

ンー ドーショーモナイモノ。 {笑}

んー どうしようもないもの。 {笑}

078D : ドーショーモ。 {笑}
どうしようも[ない]。 {笑}

北茨城市大津町談話 A（自由会話）注記

【1】地震の時の話

[1] Y1

屋号。

[2] Y2

屋号。

[3] ヘタ

「ヘタ」の「へ」の母音は、[i]と[e]の中間の音。

[4] キッツ

木櫃。捕れた魚を氷と一緒に入れるための箱状の容器。畳一畳よりも大きいくらいで、深さも腰ほどの高さの大きな容器。昔は船大工が木で造った。その後、プラスチック製の青いキッツになった。話者によれば、夏にはキッツに水を入れて子供の水浴びにも使ったことがあるという。最近はあまり見かけないという。

[5] X1

人名（名前）。

[6] カドーノ

地名。福島県いわき市遠野町上遠野。

[7] カーベ

地名。福島県いわき市川部町。

[8] X2

人名（名字）。

[9] X3

人名（名前）。

[10] ニーダ

地名。北茨城市関南町仁井田。大津町の西方に隣接。

[11] イズラ

地名。北茨城市大津町五浦。大津町の東方に隣接。

【2】チリ津波の経験談と今回の津波の時の話

[12] X4

人名（名前）。

[13] Y3

屋号。

[14] X5

人名（名前）。

[15] セーフン

「セーフン」と聞こえるが、製氷会社のこと。

[16] S1

船名。

[17] シャガセン

「シャガセン」と聞こえるが、チャカ船のこと。個人（親子）で漁をするような小さ

な船。

[18] X6 アンチャン

X6は人名（名字）。アンチャンはその家の長男のこと。

3-3 北茨城市大津町の談話B：場面設定会話

話し手

A	女	1937 (昭和 12) 年	(収録時 74 歳)	
B	女	1938 (昭和 13) 年	(収録時 73 歳)	
C	女	1938 (昭和 13) 年	(収録時 73 歳)	
D	女	1938 (昭和 13) 年	(収録時 73 歳)	
E	女	1957 (昭和 32) 年	(収録時 54 歳)	[調査者]

(1) あいさつ：朝、道端で友人に会った時のやりとり

◆出会い

001B：オハヨー。
おはよう。

002D：オハヨー。
おはよう。

003C：キョーワ サムイネー。
今日は 寒いねー。

004D：ンー サムイネー。
んー 寒いねー。

005A：ドコサ イグノー。 カイモノー。
どこに 行くのー。 買い物？

◆別れ

001A：ンジャネー イッテキナー。
じゃあねー いってきなさい。

◇あいさつ行動についての話者同士の会話

001B：マー テンキノ アイサツダネー。
まー 天気 の あいさつだねー。

002D：ネー。 ダイタイ テンキノネ アイサツトカ ソンナモンダイネ。
ねー。 大体 天気 のね あいさつとか そんなものだよ。

◇あいさつ行動（最近の別れ際のやりとり）についての話者談

001C：ワガレルトキア マタ オラ ゲンキデネーッテネー。
別れる時は また ほら 元気でねーってねー。

002D : ソーダイネー。
そうだよねー。

003C : コノゴロワ ソー ユーヨネ。
このごろは そう 言うよね。

004D : ソーネ ユーネ。
そうね 言うね。

005C : オタガイニ ゲンキデイヨーネーッテネ。 (D ソーネーッテネー)
お互いに 元気でいようねって。 (D そうねーってねー)

ソンナカンジダネ。
そんな感じだね。

006D : マイワネ ソンナコト イワナカッタダケ ヤッパ
前はね そんなこと 言わなかったんだけど やっぱり

トシトッタダヨネー。 {笑}
年取ったんだよねー。 {笑}

007C : ダカラ ユッタコトナイ ソー ユッタコトネー。
だから [以前はそんなことを]言ったことない そう 言ったことない。

《解説》

漁港のある大津では、朝は忙しい時間帯である。そこで、あまり人をつかまえて、朝はおしゃべりしない。どこに行くのか、や、天気のおいさつなどで軽く済ませる。

(2) あいさつ : 昼、道端で友人に会った時のやりとり

001C : コンチワー。 コンニチワー。
こんにちはー。こんにちはー。

002A : コンチワー。
こんにちはー。

003C : イヤ シバラクダネ。 イヤー。 オヒル タベタッケー。
いや 久しぶりだね。 いやー。 お昼 食べたのかい？

004A : アー チョコットバツカリネー。 {笑}
あー 少しばかりねー。 {笑}

005A : オソイカラ カイモンシテ カインノ。
遅いから 買い物して 帰るの？

006C : ンー カイモノシテネ。
んー 買い物してね。

007A : ンー アタシモ ハー カイルワ ナカゴーサ [1]。 ンー ハイヨ。
んー あたしも もう 帰るわ 中郷に。 ンー はいよ。

008C : マゴ マッデッカラ。 ソー ンー。 カイモノシテ カエッペ。 {笑}
孫[が] 待ってるから。 そー ンー。 買い物して 帰ろう。 {笑}

(3) あいさつ : 夕方 (夜)、道端で友人に会った時のやりとり

001A : オバンデス。
こんばんは。

002C : オバンカタデス。
おばんかたです。

003A : モー スグダネー クラクナンノ ハエーネー (C ネー) コノ
もー すぐだねー 暗くなるの 早いねー (C ねー) この

フユンナットネー。
冬になるとねー。

004C : ホントダネー。(A ンー) キョーワ ナニシテクーノ。
本当だねー。(A んー) 今日は何して食うの。

005A : ワガンネ ムスメ ツクツカラ。 {笑}
わからない 娘[が] 作るから。 {笑}

006A : アテガイラレタモノ クーダケダカラ。
あてがわれたもの[を] 食うだけだから。

007C : イヤ シアワセダネー。 デ シアワセダゴドー。 {笑}
いや 幸せだねー。 で 幸せなことー。 {笑}

008A : ヒトツツモ シアワセデネ。 ホントニ。
ひとつも 幸せじゃない。 本当に。

009C : ンーン シアワセッテ オモワナキャ ダメダヨ。(D ホントダヨ) ンー。
んーん 幸せって 思わなきゃ だめだよ。(D 本当だよ) ンー。

アタシナンテ イマツカラ マコニヤー クアセンノ
私なんて 今から 孫に 食わせるの

ツクンネキエナ^ンネンダヨ。(A タイヘンダネー) アンタ マイニジ
作らな^きゃ^らないんだよ。(A 大変だねー) あんた 毎日

マイニチ ヨーイデネー。 カイモノシテヨー。
毎日 容易でない。 買い物してよー。

010A : ジャ キョーツケテ カエリナー。 アタシモ カエツカラー。
じゃ 気をつけて 帰りな。 私も 帰るからー。

011C : ンー。
んー。

◇夕方と夜のあいさつについての話者談

001B : 「オバンカタ」 デ ユーガタンナツタラ 「オバンカタ」 ダヨネ。(C ンー)
「おばんかた」 [それ]で 夕方になったら 「おばんかた」 だよネ。(C んー)

スコシ クラクナッチキタラ 「コンバンワ」。
少し 暗くなってきたら 「こんばんは」。

002D : 「コンバンワ」 ッテ。
「こんばんは」 って。

《解説》

「オバンカタ」は、「ニチボツカラ ヨルニハイルトコロ」(日没から夜にはいるところ)の時間帯のあいさつ。その後になると「オバンデス」になる。夜のあいさつでは、「オバンカタ」が「オバンデス」になる。

◇夕方の年配の人のあいさつについての話者談

001B : ウチノキンジョニ イワキカラ [2] オヨメニキタ オバーチャンガネ
うちの近所に いわきから お嫁に来た お婆ちゃんがね

(A ンー) ユーガタンナツ マゴツレテネ 「オバンカタ」 デナイノ、
(A んー) 夕方になると 孫連れてね 「おばんかた」 でないの、

(A ンー) 「クッタカー」 ッテ クンノ。(A クッタカー) {D 笑}
(A んー) 「[夕飯]食ったかー」 って 来るの。(A 食ったかー) {D 笑}

「オー クッタカー」 ッテ。(A ンー)
「おー 食ったかー」 って。(A んー)

《解説》

夕方の食事の支度をする頃の時間、女性は年をとると、お嫁さんが夕飯の支度をするの

で、家の中にもすることがなく、身の置きどころがなくなる。それで、孫などを連れて近所を散歩するのだという。

(4) 労い：仕事に精を出す人の労をねぎらう言い方

001C：ガンバッテンネー (D ンー) アンタ イツモ ガンバッテンネー。
頑張ってるねー (D んー) あんた いつも 頑張ってるねー。

002D：ンー ガンバッテンネ。
んー 頑張ってるね。

《解説》

近所の人同士で労をねぎらうことはあまりしない。他所から仕事に来ていた人には、次の会話のように「お疲れさま」などと言う。

◇仕事に来ている人などに対する労い

001B：オツカレサマ。 タイヘンダッタネー。
お疲れさま。 大変だったねー。

(5) 勧め：Xが仕事をしているYに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり

◆お茶にしようという呼びかけ

○その1

001B：ジャー ココラデ ンー オチャニスツケー。
じゃあ ここらで んー お茶にしよう。

○その2

002D：オチャニデモスツケー。 ンー ココラデ オチャニスツケー。
お茶にでもしよう。 んー ここらで お茶にしよう。

○その3

003D：ジュージダヨー オチャニスル (B ンー) ジ ネー オチャニスツペー。
十時だよー お茶にする (B んー) × ねー お茶にしよう。

◆お茶が入ったことを知らせる

○その1

001C：オチャ ハイッタヨー オチャニスツペー。
お茶 入ったよー お茶にしよう。

○その2

002D : オチャ ハイッタヨー。
お茶 入ったよー。

(6) 訪問時の声掛け：昼間、XがY宅を訪れる時の声かけと、Yの返事（Xは話し手B、Yは話し手D）

○その1

001B : コンチワー イダケー。
こんにちはー 居たかい。

002D : ハイリナー アガリナー オチャ ノンデキナー。
入りなさい あがりなさい お茶 飲んできなさい。

○その2

001B : コンチワー イタケー。 ナニヤッテンノー。
こんにちはー 居たかい。 何やってるのー。

002D : オチャ ノンデキナー (B ジャー) ナンニモネー カラッチャダケドヨー [3]。
お茶 飲んできなさい (B ジャー) [茶菓子が]何もない 空茶だけだよー。

003B : ジャー チョット ノンデグカー。 [4]
じゃー ちよっと 飲んでいくかー。

◇昔の大津の地元の人同士の訪問時の掛け合いについての話者談

001B : 「イタケー」 ツツテネー (D ンー) 「ハイヨー」 ツテユー。
「居たかい」 って言ってねー (D ンー) 「はいよー」 って言う。

002C : ホーントニ ネット (B ンー) ムカシッカラ イデサ アノ
本当に ねっ (B ンー) 昔から [大津に]居てさ あの

ソーユトコダッタラ (B ンー) ソーユー 「イダヨー」 ットカッテ。(B ソー)
そういう所だったら (B ンー) そういう 「居たよー」 っとかって。(B そー)

(D ンー) 「イダケー」 ト 「イダヨー」 ナンツツテネー。(D ンー)

(D ンー) 「居たかい」 と 「居たよー」 なんて言ってねー。(D ンー)

003B : 「アカ°ンニヤー」 ツテ。 {笑} (C ンー)
「おあがんなさい」 っ。 {笑} (C ンー)

004D : 「アカ°ンニヤー」 「アカ°ンニヤー」 ツツテ (? アガカ°ンニヤー) ンー、
「おあがんなさい」 「おあがんなさい」と言って (? おあがんなさい) ンー、

「アカンニャー」ツテ 「オチャ ノンデキナー」ツテ カラッ ンー。
「おあがんなさい」って 「お茶 飲んできなさい」って ××× んー。

005C : 「アガッタラ アガッタライーベヨー」トカッテ。 _____ ネ。
「あがったら あがったらいいだろうよー」とかって。 _____ ね。

006D : ンー 「カラッチャダカンネー ナンニモネーケドヨー サツマグライ
んー 「空茶だからねー 何にもないけどよー さつま芋ぐらい

フカシテアッカラー」ナンテ ソーユフーニワネー (B ンー) ュツタリネー
ふかしてあるからー」なんて そういうふうにはねー (B んー) 言ったりねー

スルケド。
するけど。

《解説》

話者の話では、大津同士なら、上記のようなかけあいのあいさつができるが、他所から来た人とはかけあいがうまくできない、会話がテンポ良くできず面白くない、という。大津同士の訪問時には、あいさつの「イタケー」に対して、家人は「イダヨー」「アガンニャー」と、テンポ良くやりとりできる。

その一方で、今は、近所でも呼び鈴を押すようになってきているという。その場合でも、知っている人の家なら呼び鈴を押して戸を開けて、家人が玄関口に出て来なくても中に入っていく。しかし、他所から来たお嫁さんがいる家は、戸を開けてくれるまで待つ。近頃はそういうふうになったという。

◇かつての浜の人の訪問についての話者談

001A : ハマノシトワネ イマハ ミンナ ウチニ カキ° カゲルデショ。
[大津の]浜の人はね 今は みんな 家に 鍵[を] かけるでしょう。

ダマッテ 「イタケー」。(D {笑}ハイッテキチャツタンダ) スngoイノ。
黙って 「いたかい」。(D {笑}入って来ちゃったんだ) すごいの。

ウチナンカ _____ モト カキ°ナンカ ナカッタカラ オカッテアゲテ
家なんか _____ 以前[は] 鍵なんか なかったから 勝手口[を]開けて

「イタケー、 X1 チャン [5] ナニツクッテンノ」 ナベノフタ
「居たかい、 X1 ちゃん 何作ってるの」[と言って] 鍋の蓋[を]

アゲタ シト イタカンネ。{笑}
開けた 人[が] いたからね。{笑}

《解説》

大津の浜の人の家では、かつては家に鍵をかけたりしなかった。今は鍵をかけるように

なったようだが、中には今でも、鍵をかけない家もある。

◇食事時の訪問についての話者談

001A : ゴハンドギダッテ シツレーナンテ イワネモンネー。

ご飯時だって 失礼なんて 言わないもんねー。

002D : ユワネー。 ズカズカ ハイッテキテタモンネッ。 ンー。

言わない。 ズカズカ 入ってきてたもんね。 んー。

003A : ユーハンドギダッテナンデモネー。 アー。

夕飯時だって何でもねー。 あー。

004B : ダカー ムカシワー アノ ショクジワ チョット ヨケーメニ ネット、
だから 昔は一 あの 食事は ちょっと 余計めに ねっ、

アッチラモ シ シトガ キテタカラ アルダローケド。

私らも × 人が 来てたから[ということが]あるだろうけど。

(D ン ツクッテータンネ ンー。) マ ヨケーニ ツクッテテ。

(D ん 作ってたよね ンー。) まあ 余計に 作ってて。

(D ウチナンカモ)

(D 家なんかも)

005C : ダレカ キタラ タベールヨーニ。

誰か 来たら 食べるように。

006B : ネー 「タベテギナー」ッテネ (C ソーソーソー) ゴハント ミソシルデモ
ねー 「食べていきなさい」ってね (C そうそうそう) ご飯と 味噌汁でも

トニカク (D ソー タベテネ) アー サカナー イツモ アツカラ、 ネー
とにかく (D そう 食べてね) あー 魚[は] いつも あるから、 ねー

サカナデモ ヤケバ。 モー ダレガ キテモ 「ゴハンタベテギナー」ッテ
魚でも 焼けば。 もー 誰が 来ても 「ご飯食べていきなさい」って

「クッテギナー」ダヨネ。 (D ンー) 「ゴハン クッテギナー」ッテ。

「食っていきなさい」だよ。 (D ンー) 「ご飯 食っていきなさい」って。

「クッタケー」ッテユー。 ソーユーノカ° モー アタリマエダッタネ。

「[ご飯]食べたのかい」って言う。 そうというのが もう 当たり前だったね。

007A : ンー ウチワネ チチオヤカ°イタカラ キンジョノ ジーチャンバーチャンガ°

んー うちね 父親がいたから 近所の 爺ちゃん婆ちゃんが

(B ン一) ミンナ アズマッテキテ コンド オチャイレデショーヨ。 ン。

(B ン一) みんな 集まってきて 今度 お茶いれでしょうよ。 ン。

(B ン一) オチャガシダシテ。{相槌} ン イロイロ ヤリマシタヨ。

(B ン一) お茶菓子出して。 {相槌} ン いろいろ やりましたよ。

(7) 借用の依頼と受諾

◆借用の依頼 (昔の言い方)

001B : カシテクンニャー。

貸してくださいって。

◆XがYにスコップを借りる時のやりとり (Xは話し手C、Yは話し手D)

001C : スコップ アッケー。 [6]

スコップ あるかい？

002D : ソコラヘンニ アッペ モッテギナー。

そこら辺に あるだろう [勝手に]持っていきなさい。

003C : カリテグカンネー。

借りていくからねー。

004D : ン一。 ナーニ ツカーノー。

ン一。 何に 使うのー？

◆借用の受諾

001A : オワツタラ ジャ モトサ モドシトイテー。 {笑}

終わったら じゃあ 元に 戻しておいてー。 {笑}

(8) お礼 : Xが借りたスコップをYに返しに行った時の言い方

◆返却とそのお礼

○その1

001D : ソコ オイトイタヨー。 アー アリガトネ。

そこ 置いておいたよー。 あー ありがとうね。

○その2

001A : オイトイタヨ ドーモネー。

置いておいたよ どうもねー。

《解説》

借りたものを返す時に、「ありがとう」を言えばいい方で、「ドーモネー」程度の軽い言い方がふつうだという。

(9) 破損の謝罪・許容・不満：XがYに借りたスコップを壊してしまい、謝る時の言い方

(9-1) Yが構わないという場合

◆破損の謝罪の言い方

001C：アリヤリヤリヤリヤ コワレチャッターンダー コレー。[7]
ありやりやりやりや 壊れちゃったんだー これー。

◆破損の許容の言い方

○その1

001A：イーヨ ウジデ イー ナオシトツカラ イーヨ。[8]
いいよ うちで 柄[を] 直しとくから いいよ。

○その2

001B：モ ソロソロ ソロソロ コワレッカト オモッテタンダー。
もう そろそろ そろそろ 壊れるかと 思ってたんだー。

(9-2) Yが破損に対して不満を述べる場合

(会話なし。)

《解説》

貸したものが壊れてしまっても、「イーヨ」と言い、「ナオシテカエシテ」などは言わないという。下の話者談にあるように、不満は述べない。

◇地元の近所の者同士の貸し借りについての話者談

001D：ナイデスネ。 フマンワ ノベナイネー。
[不満は言わ]ないですね。 不満は 述べないねー。

002B：マー アイテカ° ネー アノー ヨソノ シトデモサー、 アマリ
まー 相手がねー あの一 よその 人でもさー、 あまり

シラナイヒトデモ アイテカ° コレー アノー ベンショースルトカ
知らない人でも 相手が これー あの一 弁償するとか

ナオシテカラ カエスカラッテユッタラ、 ソレデモヤッパリ コワレッカモ
直してから 返すからって言ったら、 それでもやっぱり 壊れるかも

シレナイヨーナモノダツタンダッペヨッテユー カンジダネ。 ンー。
しれないようなものだったんだよっていう 感じだね。 んー。

003D : イーデスヨッテ。(A イーガラー) ナオスカラ イーヨーッテ。(C ンー)
いいですよって。(A いいから) 直すから いいよーって。(C んー)

004B : モー ソロソロ コワレソーダッタカラ、 コワレタンダッテ ユーフーニ
もう そろそろ 壊れそうだったから、 壊れたんだって いうふうに

トラエルヨネ。
捉えるよね。

005D : ンー ンー。 フマンワ ノベナイネ。
んー んー。 不満は 述べないね。

006B : ンー。
んー。

007A : ウジナンカ ヨーグ モノ シトニ カシテー (D ンー) カイシテモラッタコト
うちなんか よく 物 人に 貸してー (D んー) 返してもらったこと

ネーカラネ。 {笑}
無いから。 {笑}

008D : ンー ソーダヨネ。 ソー。
んー そうだよね。 そー。

009A : 「ノコギリ カシナー」 「カンナ カシナー」 ッテ ユワレデ、 「X2 サン [9]
「鋸 貸しなさい」 「鉋 貸しなさい」 って 言われて、 「X2 さん

アレ カイシテモラッ」 タツト 「アー ソーダナー」 クレーデ オワリダモン。
あれ 返してもらった」と言うのと 「あー そうだなー」 くらいで おわりだよ。

◇勝手に借りていく場合

001A : ンデ シコトバ アゲテ (E エー) ジブンデ ハー
[借りる人が、それ]で 仕事場 開けて (E えー) 自分で もう

モッチキチャッテ、 (E エー) 「カンナ カリテグカンネー」 {笑} {D 笑}
持ってきちゃって、 (E えー) 「鉋[を] 借りてくからねー」 {笑} {D 笑}

ソンナモノ。
そんなもん。

(10) 誘いと断り：XがYを誘い、Yが断る時のやりとり

○その1 (Xは話し手D、Yは話し手B)

001D：イカナイ？
行かない？

002B：ンー イケナイナー。
んー 行けないなー。

◆断り

001D：ンー チョーット イケナインダー。
んー ちょーっと 行けないんだー。

《解説》

断る時にはグダグダと言わずに、あっさり言って断る。

◆久しぶりに会った友人を食事に誘う会話 (Xは話し手B、Yは話し手D)

001D：オハヨゴザイマス。 X3 チャン [10] シバラクダネー。{笑}
おはようございます。 X3 ちゃん 久しぶりだねー。{笑}

002B：イヤー ホントネ。
いやー 本当ね。

003D：イヤー、ズーイブン アワナカッタヨネー。{笑} ナニ ヤッテタノー。{笑}
いやー、随分 会わなかったよねー。{笑} 何 やってたのー。{笑}

004B：ヤ コナイダネ チョット イチネンノブンノ コー テチョーミテタラ
いや この間ね ちょっと 一年分の コー 手帳見てたら

イチガツナンニチニ ウエダノ Y1 ガ [11] ウドン タベタッテ_____。
一月何日に 植田の Y1 が うどん 食べたって_____。

005D：ア ウドン タベニイッテキタノ。{笑}
あ うどん 食べに行ってきたの。{笑}

006B：アレイライ アッテナイナーッテ (D ンー) キノー ホラ コレニ
あれ以来 会ってないなーって (D んー) 昨日 ほら これに

クルノデサー (D ン一) テチョー ミテ イツダッタンカナート
来るのでさー (D ン一) 手帳[を] 見て いつだったかなーと

オモッテタラネ。 ソンナカンジ。 ン一 マタ ネ。{笑}
思ってたらね。 そんな感じ。 ン一 また ね。{笑}

007D : マタ ドッカ ゴハン タベニイコーネ。{笑} モー アトネ ナンネンモ
また どこか ご飯 食べに行こうね。{笑} もー 後ね 何年も

(B ン一) イキナインダカラ。
(B ン一) 生きないんだから。

008B : ン一 ソーダヨネー。
ン一 そうだよねー。

009D : ン一 モー タノシク マインチネ。(B ン一) ホント イチンチ モー
ン一 もー 楽しく 毎日ね。(B ン一) 本当 一日 もー

アタシモ コノコ°ロ カンカ°イテサー (B ン一) ヤー キョーモ イチンチ
私も この頃 考えてさー (B ン一) やー 今日も 一日

ゲンキデイラレタナー。 アシタモ ナンカ イカレルカナアッテ (B ン一)
元気でいられたなー。 明日も 何か 行けるかなーって (B ン一)

ソーユフニ オモーモンネー。(B ン一) カラ オイシーモン タベター
そういうふうに 思うもんねー。(B ン一) だから 美味しいもの 食べてー

モー タノシクネ {笑} タベルコトツキリ カンガエナイノ コノコ°ロ。
もー 楽しくね {笑} 食べることしか 考えないの この頃。

010B : ダッテ ナイモンネ ソレキリ。
だって 無いもんね それしか。

011D : ソレッキリ ナインダヨネ。 ン一 デ ドッカ イッテ。
それしか 無いんだよね。 ン一 で どこか 行って。

012B : ケツキョク テキトーナ ショーショーノネ アノー オコズカイデ
結局 適当な 少々のね あのー お小遣いで

アソベルカラネ {笑} (C ソー) ショクジカイワネ。{笑} ショッピングマデワ
遊べるからね {笑} (C ソー) 食事会はね。 {笑} ショッピングまでは

タイヘンダシネ。
大変だしね。

013D : ホーントネ。 アノー イワキノホーニ オイシートコ メッケタノ。
本当ね。 あのー いわきの方に おいしい所 見つけたの。

014B : メッケタノ。{笑}
見つけたの。{笑}

015D : ンー ダカラ ソコエ タベニ ヨニンデ イコーカナートオモッテ
んー だから そこへ 食べるに 4人で 行こうかなーと思って

カンガエテタトコナノヨ。 ンー。 ダカラ デッタイ アスコダッタラ
考えてたところなのよ。 んー。 だから 絶対 あそこだったら

ミンナノ ソノネ アノー カラダニ アノ イーモノナンドワ。{笑} ちょっと
皆の そのね あのー 体に あの 良いものなんだよ。{笑} ちょっと

キョートノ カイセキリョーリミタイナー カンジノ リョーリナノ。(A ンー)
京都の 懐石料理みたいなー 感じの 料理なの。(A んー)

デ ソンナ タカクナイデ。 ンダカラ アー コレワ イーナッテ
[それ]で そんな 高なくて。 だから あー これは 良いなって

コノマエ タベナガラー (B ンー) ジブンデ カンガエテタラ。 ゼッタイ
この前 食べながらー (B んー) 自分で 考えてたら。 絶対

イコーネ。{笑}
行こうね。{笑}

(11) お見舞い：体調を崩しているYに、Xが体の調子を尋ねる時のやりとり

(11-1)Yの調子がいい場合 (X・Yとも話し手A)

001A : X4 チャン [12] ドーシテー。 ネット サカッター。
X4 ちゃん どうしたー? 熱 下がったー?

002A : ンー サカッタンダヨー。
んー 下がったんだよー。

003A : ヨカッタネー。 キオツケナー。
よかったねー。 気をつけなー。

(11-2) Yの調子が悪い場合

○その1 (Xは話し手D)

001D : ダイジニシナー。 ドコ ワルイノー ヨク イシャニ ミテモライナー。
大事にしなー。 どこ 悪いのー よく 医者に 診てもらいなー。

アンマリネッ ムリスット アレダカラー ヨーク イーイシャニ
あんまりね 無理すると あれだからー よーく いい医者に

ミテモラーノヨー。
診てもらおうのよー。

○その2 : 古い言い方 (Xは話し手A、Yは話し手D)

001A : アンバー [13] ドーシテ。
具合[は] どうした?

002D : ンー アンバー ワリンダー。 イマ アンバー ワリーカラ、
んー 具合[が] 悪いんだー。 今 具合[が] 悪いから、

イカレネンダー。
行けないんだー。

003A : ンー。
んー。

○その3 : 今時の言い方 (Xは話し手D)

001D : カラダノ チョーシ ドーナノー。 ソノゴ ドー ヨクナッター。 イシャニ
体の 調子[は] どうなのー? その後 どう よくなったー? 医者に

イッタノケー。 アスコノイシャー ダメダカンネー。 チカ°ウトコロノ
行ったのかい。 あそこの医者は 駄目だからねー。 違うところの

オーキービョーインニ イッタホーカ°イーヨー。
大きい病院に 行ったほうがいいよー。

(1 2) 申し出 : 体の調子が悪く、家の片付けもできないというYに、Xが「(私が)片付けてやろう」というときのやりとり

(会話なし。)

《解説》

遠慮して、片付けてやろうということは申し出ない。

(13) 禁止：片付けの最中に、大事な写真をXが間違っ
て捨てようとするのをYが制止する言い方

○その1

001B：アー ソラ ヤンナクテイーヨー。

あー それは やらなくていいよー。

○その2

001D：アトデ オレガ^o ヨクナッタラ ヤッカラ、 ヤンネデイーヨー。

あとで オレが よくなったら やるから、 やらなくていいよー。

北茨城市大津町談話B（場面設定会話）注記

- [1] ナカゴー
地名。中郷。北茨城市中郷町。市内南部の地域。
- [2] イワキ
地名。福島県いわき市。北茨城市の北に隣接する。北茨城市といわき市とは関係が深く、両市間での婚姻も多い。
- [3] カラッチャ
空茶。菓子のないお茶だけのこと。
- [4] 003B の発話の下線部
003B の発話下線部に、D の発話「ソノ キタネ ヨージ」が重なっている。訪問時の場面のやりとりそのものではないので、重なっている D の発話の文字化は省略した。
- [5] X1
人名（名前）。
- [6] 001C の発話の下線部
001C の発話下線部に、A の発話「スコップ アッキー」が重なっている。この A の発話の文字化は省略した。
- [7] 001C の発話の下線部
001C の発話下線部に、D の発話「コワレ ンー」が重なっている。この D の発話の文字化は省略した。
- [8] 001A の発話の下線部
001A の発話の下線部に、D の発話「ジャ ウチデ ナオシトッ」が重なっている。この D の発話の文字化は省略した。次の 001B にも発話の一部や笑い声が重なっているが、下線・文字化とも省略した。
- [9] X2
人名（名前）。
- [10] X3
人名（名前）。
- [11] ウエダノ Y1
ウエダは地名。福島県いわき市植田町。Y1 は店名。うどんを食べた店。
- [12] X4
人名（名前）。
- [13] アンペー
具合。塩梅。話者の話によれば、「アンペー」は昔は言ったが、今は使わないという。